

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジツン フジダガクイン 学校法人 藤田学院								
フリガナ大学の名称	トトリカゴダガクガクガクイン 鳥取看護大学大学院 (Tottori College of Nursing Graduate School)								
大学本部の位置	鳥取県倉吉市福庭854番地								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	看護学研究科では、地域に活力をみなぎらせ、健康を基軸とした地方創生の実現に寄与するために、研究的視点を持ちながら、地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築し、地域とともに歩む実践看護者を育てることを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部看護学科 14条特例の実施
	看護学研究科 〔Graduate School of Nursing Science〕 看護学専攻 〔Master's Program in Nursing Science〕 計	年	人	年次人	人	修士 (看護学)	平成31年4月 第1年次	鳥取県倉吉市福庭854番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
	新設分	看護学研究科 看護学専攻(修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計	10人 (10)	4人 (4)	—人 (—)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	5人 (5)
	既設分	該当なし	—	—	—	—	—	—	—
		計	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
合計		10 (10)	4 (4)	— (—)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	5 (5)	
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計	
	事務職員			10人 (10)		0人 (0)		10人 (10)	
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)	
	図書館専門職員			1 (1)		0 (0)		1 (1)	
	その他の職員			1 (1)		0 (0)		1 (1)	
計			12人 (12)		0人 (0)		12人 (12)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			鳥取短期大学（必 要面積6,000㎡） と共用		
	校 舎 敷 地	4,241㎡	21,715㎡	0㎡	25,956㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	17,169㎡	0㎡	17,169㎡					
	小 計	4,241㎡	38,884㎡	0㎡	43,125㎡					
	そ の 他	0㎡	12,149㎡	0㎡	12,149㎡					
合 計	4,241㎡	51,033㎡	0㎡	55,274㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			鳥取短期大学（必 要面積8,200㎡） と共用		
		6,245.73㎡ (6,245.73㎡)	3,396㎡ (3,396㎡)	8,245.5㎡ (8,245.5㎡)	17,887.23㎡ (17,887.23㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 (情報処理学習施設 と語学演習施設は鳥 取短期大学と共用)		
	8室	4室	4室	1室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科 看護学専攻		18 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能なため、大学 全体。 鳥取短期大学と共 用。 (図書66,868冊、 学術雑誌80種、視 聴覚資料945点)		
	看護学研究科	10,914 [989] (8,864 [949])	31 [0] (31 [0])	59 [59] (59 [59])	590 (573)	6,088 (5,988)	35 (35)			
	計	10,914 [989] (8,864 [949])	31 [0] (31 [0])	59 [59] (59 [59])	590 (573)	6,088 (5,988)	35 (35)			
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		1,343.97㎡		157		80,200				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
		1,424㎡		テニスコート2面 —						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費等は、研究 科単位での算出は 不能なため、学部 との合計。 図書購入費には電 子ジャーナル・ データベースの整 備費（運用コスト 含む）を含む。研 究科単位での算出 は不能なため、学 部と合計。	
	教員1人当り研究費等		500千円	500千円	—	—	—	—		
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	—	—	—	—		
	図書購入費	5,547千円	4,547千円	4,547千円	—	—	—	—		
	設備購入費	3,670千円	1,000千円	1,000千円	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		900千円	700千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、手数料収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	鳥取看護大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度		所 在 地
	看護学部 看護学科	4年	80人	— 年次人	320人	学士(看護学)	1.06 1.06	平成27年度		鳥取県倉吉市福庭 854番地
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	鳥取短期大学							鳥取県倉吉市福庭 854番地  ※昭和48年4月、 平成18年4月改称	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度		所 在 地
	生活学科 情報・経営専攻 住居・デザイン専攻 食物栄養専攻	2	35	—	70	短期大学士	0.96 1.30	平成12年度		鳥取県倉吉市福庭 854番地
		2	30	—	60	短期大学士	1.00	平成12年度		
		2	50	—	100	短期大学士	0.71	昭和48年度		
	幼児教育保育学科	2	145	—	290	短期大学士	0.95	昭和46年度		
国際文化交流学科	2	40	—	80	短期大学士	0.90	平成12年度			
附 属 施 設 の 概 要	該当なし									

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	看護理論	1前	2			○			2						オムニバス
	看護研究方法論	1前	2			○			3						オムニバス
	Glocal Nursing Field Work	1前	2				○		9	3		4			共同
	小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	9	3	—	4	0	0	—
	看護倫理学特論	1前		2		○									兼3 オムニバス
	保健統計学特論	1前		2		○				1					兼1 共同
	看護病態学特論	1後		2		○			2						共同
	看護教育学特論	1前		2		○			2						共同
	地域包括ケア論	1後		2		○			2						共同
	看護コンサルテーション論	1後		2		○			1	1					兼1 共同
フィジカルアセスメント論	1後		2		○			2	1		3			共同	
小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	—	8	3	—	3	0	兼5	—	
専門科目	地域イノベーション看護論Ⅰ	1後		2		○			1						
	地域イノベーション看護論Ⅱ	2前		2		○			1	1					共同
	地域メンタルヘルス看護論Ⅰ	2前		2		○			1						
	地域メンタルヘルス看護論Ⅱ	2前		2		○			1	1					共同
	母性看護学特論	1後		2		○			1			2			共同
	小児看護学特論	2前		2		○			1						
	国際看護特論	1後		2		○			1			1			共同
	国際地域保健展開論	2前		2		○			1			1			共同
	看護教育育成演習Ⅰ	1後		2			○		4	3		3			共同
	看護教育育成演習Ⅱ	2前		2			○		4	3		3			共同
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	8	3	—	4	0	0	—	
究特別目研	特別研究Ⅰ	1後	4				○		10	4					
	特別研究Ⅱ	2通	6				○		10	4					
	小計(2科目)	—	10	0	0	—	—	—	10	4	—	0	0	0	—
合計(22科目)		—	16	34	0	—	—	—	10	4	—	4	0	兼5	—
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本課程研究科に2年以上在学し、基盤科目から7科目14単位以上(必修科目3科目6単位含む)、専門科目から3科目6単位以上(研究テーマに関する領域の科目2科目4単位以上)、看護教育育成演習Ⅰまたは看護教育育成演習Ⅱから2単位以上)、特別研究科目10単位、合計30単位以上修得し、かつ、修士論文を提出し、審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	学びの基礎	スタディスキル	1前	1			○			6	4		1		
		日本語表現	1前	2			○			1					
	人文学	人間学	1前	2			○			1					
		心理学	1・2・3・4前		2		○							兼1	
		教育学	1・2・3・4前		2		○							兼1	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○			1					
		文学	4後		2		○			1					
	社会科学	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○							兼1	
		多文化共生論	4後		2		○							兼1	
		山陰論	1後	2			○			3				兼6 オムニバス	
自然科学	化学	1前		1		○							兼1		
	住環境論	2・3・4前		2		○							兼1		
	統計学	1前		2		○							兼1		
	情報処理Ⅰ	1前	1				○						兼1		
	情報処理Ⅱ	1後		1			○						兼1		
コミュニケーションスキル	日本語表現演習	1後	1				○		1						
	英語A(基礎英語)	1前	1				○						兼1		
	英語B(英文講読)	1後		1			○						兼1		
	英語C(英会話)	2前		1			○						兼1		
	中国語	1後		1			○						兼1		
	韓国語	1後		1			○						兼1		
	手話	2後	1				○						兼1		
健康	健康科学	1前		1		○							兼1		
	実践スポーツ	1前・後		1			○						兼2		
小計(24科目)		—	11	24	0		—		7	4	—	1	0	兼21	—
専門支持分野	人体の構造と機能	生殖と倫理	2後	1			○							兼1	
		人体の構造と機能A	1前	1			○			1					
		人体の構造と機能B	1後	1			○			1					
		人体の構造と機能C	1前	1			○			2					
		人体の構造と機能D	1後	1			○			2					
		生物学	1前		1		○							兼1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染免疫学	2後	1			○			1					
		薬理学	2後	1			○							兼1	
		看護病態学	2前	1			○			1					
		看護病態学演習	2前	1				○		1					
		疾病論A	2通年	1			○							兼2 オムニバス	
		疾病論B	2後	1			○							兼4 オムニバス	
	こころの健康	発達心理学	1後	1			○							兼1	
		臨床心理学	1前	1			○							兼1	
		人間関係論	1前	1			○							兼1	
ホスピタリティ論		1後		1			○						兼2 オムニバス		
地域社会と健康支援	公衆衛生学	1後	2			○				1					
	社会福祉・社会保障論	2後	2			○							兼1		
	人権論	2後		1		○							兼1		
	家族社会学	2後		1		○							兼1		
	コミュニティ論	2後	1			○							兼1		
小計(22科目)		—	20	4	0		—		2	1	—	0	0	兼18	—

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基盤看護学	看護学概論	1前	2			○			1					
		看護倫理学	2前	1			○						1		
		基盤看護技術A	1前	1				○		2	1		4		
		基盤看護技術B	1後	2				○		2	1		4		
		基盤看護技術C	2後	2				○		2	1		4		
		基盤看護技術D	2前	2				○		2	1		4		
		生活健康論	1前	1				○		1					
		看護ケア論	1後	1				○		1					
		地域基礎看護学	1後	1				○		1					
		生活健康論実習	1前	1					○	2	1		5	4	
		フィールド体験実習	1後	1					○	3	1		6	4	
		基盤看護学実習	2前	2					○	4	4		14	4	
小計（12科目）		—	17	0	0	—			5	4	—	14	4	0	—
専門実践分野	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○						1		
		成人看護学援助論A	2前	2			○						1		
		成人看護学援助論B	3前	2			○						1		
		成人看護学援助論C	3前	1			○								兼2
		成人看護学実習A	3後	2					○				5	3	
		成人看護学実習B	3後	3					○				5	3	
	母子看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1					
		小児看護学援助論	3前	2			○			1					
		小児看護学実習	3後	2					○	1			2	3	
		母性看護学概論	2前	2			○			1					
		母性看護学援助論	3前	2			○			1					
		母性看護学実習	3後	2					○	1			1	3	
小計（12科目）		—	23	0	0	—			2	0	—	7	3	兼2	—
地域包括支援分野	地域包括支援看護学	老年看護学概論	2前	2			○					1			
		老年看護学援助論	3前	2			○					1			
		老年看護学実習	3後	2					○			1		3	
		精神看護学概論	3前	2			○			1					
		精神看護学援助論	3前	2			○					1			
		精神看護学実習	3後	2					○	1	1			3	
		在宅看護学概論	2後	2			○					1			
		在宅看護学援助論	3前	2			○					1			兼1
		在宅看護学実習	4前	2					○			1		3	
		地域連携・協働支援論	3前	2			○			2	2				
		地域連携・協働実習	4前	1					○	4	4		2	3	
		地域密着看護実習	4前	1					○	4	5		11	3	
		まちの健康論	3前	1			○			1					
		公衆衛生看護学概論	2後	2			○			1					
		疫学	3前	2			○					1			
小計（15科目）		—	27	0	0	—			6	6	—	11	3	兼1	—

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護統合分野	看護の統合と実践	看護活動と研究	3前	1			○			1						
		看護学統合研究	4通	2				○		6	6		11			
		家族看護学	2前	1			○			1						
		看護管理学	4後		1		○						2		共同・集中	
		看護教育学	4後		1		○			1						
		リスクマネジメント論	2後	1			○								兼1	
		リフレクション論と実践	2後	1			○			1						
		生活リハビリテーション論	3前		1		○									兼1
		災害看護論	2後	1			○				1					
		国際看護論	3前		1		○						1			兼1 集中
	看護総合	4後	1			○			6	5		1				
	看護学統合実習	4前	2				○		5	5		14	3			
小計（12科目）		—	10	4	0	—			7	6	—	14	3	兼3	—	
保健師教育分野	公衆衛生看護学	保健統計学	2後		2		○								兼1	
		学校保健	3前		1		○								兼1	
		産業保健	3前		1		○				1					
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3前		3		○			1						
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		3		○				1					
		公衆衛生看護管理論	4前		1		○								兼1	
		公衆衛生看護活動展開論実習	4前		1			○			1		2	3		
		公衆衛生看護管理論実習	4前		2			○			1		2	3		
小計（8科目）		—	0	14	0	—			1	2	—	2	3	兼3	—	
合計（105科目）			—	108	46	0	—			10	6	—	14	3	兼47	—
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
基礎分野では必修科目11単位及び選択必修科目2単位を含む24単位以上、専門支持分野では選択科目2単位を含む22単位以上、専門基礎分野では必修科目17単位、専門実践分野では必修科目23単位、地域包括支援分野では必修科目27単位、看護統合分野では選択科目1単位を含む11単位以上を修得し、合計124単位以上習得していること。 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（124単位）の他に、保健師教育分野の科目の全て（14単位）を習得すること。なお、「保健統計学」「学校保健」「産業保健」は保健師資格を希望しない者も履修することができる。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護理論	<p>看護において中範囲理論を活用することは、看護の質を高め、さらに看護を発展させることができると言われている。確かに、看護現象の記述や説明、そして予測しやすく、実践的研究にも活用できるという特徴がある。しかしその理論は、日本で開発されたものは少なく、わが国での検証が必須である。そのためにも、まず理論と出会い、概念を咀嚼しながら、実践に活用しうる手立てを考えられるよう学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 近田 敬子／8回) 看護基礎教育において、マズローの基本的欲求階層について履修した者は多い。冒頭では近田が開発した発動性の発揮モデルとの関連性で、自己実現論を深める。低次の欠乏欲求と言える安寧や安定を阻害する危機は、人間に緊張や動揺をもたらす。その危機理論を学修し、次いでその対処法に繋げるストレス・コーピング理論を学ぶ。様々な危機を乗り越えて、人間は健康・保健行動を遂行する。ここでは、保健信念モデルを中心に学ぶ。以上の文脈で、看護中範囲理論を学ぶ。</p> <p>(6 前田 隆子／7回) 看護実践につながる中範囲理論について、アタッチメント理論、家族看護中範囲理論等の概念を説明、分析し、実践・研究・教育への適用について学ぶ。</p>	オムニバス方式
基盤科目	看護研究方法論	<p>研究的な視点から地域の看護に関する課題を見出し、論理的に解決する力を持つ実践者の育成を目指し、看護研究の方法について学ぶ。看護学における研究の意義、研究課題のとらえ方、文献のクリティークおよび活用の仕方、倫理的配慮などの基本を学んだ上で、各研究方法の特徴を踏まえて自らの看護研究を計画・実施するために、量的・質的研究デザイン両者の概要とデータ収集・分析のプロセス、必要となる研究方法を学修する。さらに、具体的な研究計画を想定し、考慮すべき研究倫理について討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 田中 響／6回) 看護研究を行う事の意義について討議し、自身の言葉で研究を行う意志を新たにした上で、看護研究を実施するにあたっての基本的知識として、研究問題や仮説、概念、概念枠組みなどの基本的な用語を修得し、活用できるようにする。その上で、文献クリティークを試行し、実際の論文の構成や内容、意義を理解し、他者へ伝え・討論する経験を経て、自身の研究について具体的に思考を整理する。</p> <p>(7 小村 三千代／3回) 看護に関する質的研究を行うにあたっての、デザインの概要とデータ収集・分析のプロセス、必要となる研究方法を学修する。特に、データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアスについて、データの解釈・整理の仕方、帰納法的思考法や演繹法的思考法、概念化などについて詳細に学ぶ。</p> <p>(9 荒川 満枝／6回) 看護に関する量的研究を行うにあたっての、デザインの概要とデータ収集・分析のプロセス、必要となる研究方法を学修する。特に、データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアスについて、データの解釈・整理の仕方、統計手法の使い方について概要を理解する。さらに医学・看護分野の研究倫理について、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について、その意図するところを学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	Glocal Nursing Field Work	<p>看護の対象の健康課題について、生活する地域の状況を含めて対応できる能力の醸成のため、学生が鳥取県内または海外でフィールドワークを展開する。フィールドにおいて地域の文化・社会的な特性や住民の生活実態の中で対象者の健康課題の分析と改善策、また健康に関する強みをも検討する過程を経て、対象や地域の健康課題に取り組むための論理的思考力と課題解決の技法を学修する。選択できるフィールドは、国内では鳥取県内全域で本学が展開し学部教育の場として活用している「まちの保健室」や「まちの保健室」子育て支援事業、ウォーキング国際大会などの海外からの来県者や鳥取県居住の外国人の来られる「まちの保健室」を活用できる。一方、海外ではフィリピン共和国のサント・トーマス大学看護学部の学部教育のフィールドに同行する。</p>	共同
	看護倫理学特論	<p>看護倫理・生命倫理の歴史の変遷と、倫理の概念や理論を理解した上で、高度先端医療から地域包括医療の現場、健康推進の現場まで様々な医療・保健の場面で見られる倫理的課題について学ぶ。学修にあたっては、看護の現場における複雑で倫理的な問題や葛藤に関わる事例を通して、内省・意思決定・言語化により倫理的判断能力を修得する。また事前自己学習や討論などを交えて多角的に検討し、チームで高度な倫理観を備えた関わりを行う能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 安藤 泰至／8回) 倫理の概念、理論を理解し、医療倫理、生命倫理の歴史の変遷を学ぶ。さらに医療者と患者関係を問い直すところからその倫理の課題を考え、人権について、生きるという事について考察していく。</p> <p>(19 笠城 典子／2回) 先端医療の現場で、最近の話題である遺伝カウンセリングに関して見識を深め、その中で起こる倫理的課題について考える。</p> <p>(20 宮芝 智子／5回) 高度先端医療から地域包括医療の現場、健康推進の現場まで様々な医療・保健の場面で見られる倫理的課題に関して、事例を通して、内省・意思決定・言語化により倫理的判断能力を修得する。自身の経験を振り返り、多面的に討論することで、明日の看護実践へのヒントを得る。</p>	オムニバス方式
	保健統計学特論	<p>研究能力の向上に寄与する科目の一つであるが、保健医療分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を学修する。</p> <p>具体的には、基本統計量、記述統計をきちんと理解し、データの概要を伝達する方法を学ぶ。記述統計によりデータを自分の目で見極め、推計や各種検定を使用する意味を理解した上で、適切な検定および推定手法の選択方法を学ぶ。学修の際は、SPSSやExcelを駆使し、実際に統計処理を行う経験をする。</p>	共同
	看護病態学特論	<p>それぞれの地域で自立して看護実践できることを意図して、看護職者の視点で、対象の病態生理学的な変化や生理機能の異常、治療による変化について観察・アセスメント・判断するための基盤となる知識を修得する。病態生理の理解にあたっては、その病態や異常状態の成り立ちを器官・組織・細胞・物質のそれぞれのレベルで理解し、さらに病態発生のメカニズムを分子レベルで理解することで、医学的病理診断や介入を理解し、看護に積極的に活用する。</p>	共同



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	看護教育学特論	看護基礎教育および継続教育において、看護学の教授活動に必要な知識と技術を学ぶ。看護学を実践するための基盤となる看護教育を支える理論や、教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴を理解し、看護学教育における教授・学修活動についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探求する。さらに、具体的な実践例を通して、看護学生や看護職への教育的な働きかけや環境づくり、リーダーシップのあり方等について理解する。また、我国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状も概観し、看護学教育の課題や将来について探求する。これらを通して、看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。	共同
	地域包括ケア論	地域包括ケアの創始から今日の展開まで、そのプロセスを辿りながら、政策としての地域包括ケアシステムの構築と、その制度化と実践における地域包括ケアの意義について先進的取り組みの事例を概観しつつ学修する。さらに、地域包括ケアシステムにおける看護職のあり方と課題について看護実践活動を通して、住み慣れた地域で在宅を基本とした生活の継続を支援するという視点で探求する。その上で、住み慣れた地域での生活上の安全・安心・健康を確保するために、保健・医療や看護のみならず介護、福祉サービスを含めた支援として包括的、有機的に連動して提供できる有効な地域包括ケアのシステム構築の方法を探求する。また、その制度化と実践における有効な看護実践力とそのシステムのさらなる開発に向けた政策提言ができるための知識と方法を学修する。	共同
	看護コンサルテーション論	広い視野と人を思いやる豊かな人間性を基盤に、対象者や社会に寄り添い、しなやかに対応でき、チームワークを活用できる能力育成のために、コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスを理解する。さらに、コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域（精神看護、母子看護）の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析する能力や、実践活動に応用できる能力を修得する。	共同
	フィジカルアセスメント論	それぞれの地域で対象となる人や地域に対し、自立して看護実践ができること、自身の看護を論理的に展開し、他の看護職者や医療者と共有できることを意図し、看護の対象となる人の健康状態や身体の状態、生理機能の異常、疾病の状況について解剖生理学・病態生理学の知識を基盤に分析・統合し看護専門職の視点で成人、小児、母親をアセスメントする知識と技術を修得する。適宜高機能シミュレーター等を駆使して科目展開する。	共同
専門科目	地域イノベーション看護論 I	医療・介護・予防・住まい・生活支援の5つの柱からなる地域包括ケアにおける様々なリソースを理解し、それらのリソースを活性化するための仕組みや実践について学修する。 その上で、急速に進行する超高齢社会を理解し、医療から終末期に至る在宅ケアの実践現場において、具体的かつ緻密な洞察力のもと、看護のあるべき未来の姿を追求する。地域における看護実践から、多角的な観察を土台に未来を洞察し、起こりうる問題の本質を感知（Observation）し、ディスカッションを行い、情勢判断（Orientation）する。知識による的確な共通概念の構築に基づき、意味形成し情勢を判断することで、意思決定（Decide）し、行動（Act）する方法を用いて地域リソースを活性化するための方策を探究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域イノベーション看護論Ⅱ	地域包括ケアの担い手の様々な側面を理解するとともに、地域における医療・看護・介護・福祉及び行政の役割とあり方を考察する。さらに、地域包括ケアシステムの構築とその制度化と実践における有効な看護実践力とリーダーシップの発揮及びそのシステムのさらなる開発に向けた政策提言ができるための知識と方法を探求する。そして、地域の医療機関や市町村、地域住民、団体等と連携し、超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドやイノベーションマインドをもち、環境の変化を洞察しつつ、リソースを活性化させ、さらに新しいリソースを創出するといったイノベーションを起こし、未来の可能性を見出し広げるリーダーシップについて考究する。	共同
	地域メンタルヘルス看護論Ⅰ	山陰、鳥取の文化、生活背景を尊重したメンタルヘルス健康生活の支援と不調者の予防を意図した研究を行い、さらに心の病をもつ人をともに地域で暮らす一員としてとらえ、精神疾患患者の地域移行支援（地域包括ケア）を支え、地域に貢献する看護職者を養成するため、本科目では、日本の地域精神医療の歴史を振り返り、現代に急増している職場におけるメンタルヘルス不調者や、若年層にまで蔓延しつつあるネット依存、薬物依存などのアディクションの看護について学ぶ。また現在の精神疾患患者の地域移行支援の現状を法的根拠、医療体制の実情、看護支援の現状などから学び、とりわけ山陰、鳥取地域の現状を把握する。	
	地域メンタルヘルス看護論Ⅱ	地域メンタルヘルス看護論Ⅰを学んだ上で、その理解をさらに深めるために、精神病院を全廃したイタリアの精神医療、メンタルヘルスの在り方を参考に、日本の精神医療、メンタルヘルスシステムを検討する。北海道でのベテルの家の試みや、各地における先進的な訪問看護などを学ぶ。そして、山陰鳥取の文化、社会、精神風土、精神医療体制の中で、精神疾患を持つ人々にどのような看護支援を行うことができるかを議論し、地域に貢献できる能力を養う。	共同
	母性看護学特論	地域の子どもの健康に成長することを支援するために、妊娠・出産・産褥期の女性への地域生活の支援や、育児中の保護者の健康支援を意図した研究を行う事の出来る看護職者を育成する。本科目では、地域で生きる女性の生涯を通じた健康保持、増進の支援に必要な視点として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基に、女性のライフステージ各期の生物学的、心理学的、社会文化学的特徴、および健康状態に影響する諸要因、母性看護学領域の倫理的課題について論じるとともに、看護介入の方法について学習する。	共同
	小児看護学特論	小児疾患患者が地域で生活するための看護支援や、地域の子どもの健康に成長することに対する看護実践を行う能力、そのような実践を意図した研究を行う能力を養うために、本科目では、地域で生活する子どもと家族、さらにそれを取り巻く地域の特徴、およびそれらの相互的・相補的作用に基づいた発達理論、疾患を抱えながら地域で暮らす子どもの精神発達、身体的成長、疾患罹患の相互関係とそのケアについて学修する。	
	国際看護特論	看護の対象者を国際的視野で認識し、その対象者の文化・社会・生活の背景等とその国の看護職の状況を看護の研究的な視点で理解し、その地域の看護職者と重厚なコミュニケーションをとりながらケアの協働実践できる看護職者の育成を目指す。本科目では、国際保健の歴史と共に、看護の対象理解と自身のコミュニケーション能力の醸成を中心に学ぶ。本科目は概ね英語を共通言語として用い、国際的な健康の課題や政策の動向を理解し、諸外国の看護師と議論できるような能力を養う。授業の中にはSkypeによる海外の看護師との討論をとり入れるなどの工夫をする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	国際地域保健展開論	<p>増加する日本在住の外国人への健康に関するケアを考慮に入れて、本邦の外国人の生活や健康問題に関して理解を深めるとともに、対象者の文化的・社会的背景を踏まえた保健・医療・福祉のシステムについて議論を深める。国際看護特論で修めた諸外国の健康問題やその検索方法、歴史的・文化的な理解、言語能力を活用し、異文化の中に浸透してケアを実践するための自分なりの方法を熟考する。自身とは違う文化背景を持つ国での実践や異文化背景を持つ対象へのケアの実践を考慮し、看護・保健活動のあり様やこれから目指すべき国際保健 (Global Health) の在り方にも言及する。</p>	共同
	看護教育育成演習 I	<p>看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護教育育成演習 I では、看護実践の場においてスタッフ教育及び患者教育の質の向上を図るために、看護基礎教育における教授内容と方法、演習指導、臨地実習指導などに焦点を当て、看護学生への演習・実習指導を体験し、学修を深める。教育実践を通して、自らの論理的思考を鍛え、教育的関わりをリフレクションし、看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方を考究する。</p>	共同
	看護教育育成演習 II	<p>看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護教育育成演習 II では、看護ケアの実践の場における他職種者との連携・協働を含めた看護支援方法や看護専門職者の新人から中堅、管理職までの育成方法などの自己教育力を育成する教授法について看護教育の動向から考究する。具体的には、看護実践の場に赴き、看護継続教育における教育方法や支援のあり方、教育介入を体験し、学修を深める。他職種者との連携・協働や臨地実習指導、看護継続教育の実践を通して、看護教育の教育的機能・役割について探究する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究科目	特別研究 I	<p>研究デザインの構築について丁寧に検討し、その後実際の修士論文作成を行うという2段階の指導を実現するために、本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験を経て、「特別研究Ⅱ」に進む。</p> <p>(1 近田 敬子) 看護の如何なる場にあっても、地域を志向した実践は欠かせない時代である。しかし、その実践は緒についたばかりで、試行錯誤しながらも、何をどのように推進すればよいかで悩んでいる状況である。そのための現任教育の在りようが問われていると言える。その現状分析から課題を抽出し、理論を用いて効果的な教育計画を立案する。この過程で分析の方法を確立させて、研究計画書を作成する。</p> <p>(2 矢倉 紀子) 地域包括ケアシステムにおける保健師活動に関する研究やソーシャルキャピタルの醸成に関する研究などをテーマとして、実務や経験などから疑問・興味を感じたことについて文献検討を行い、研究課題を明確にし、研究計画を立てる。また、倫理的配慮を記述し倫理審査に申請する。</p> <p>(3 田中 響) 看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、臨地実習指導方法などに関する研究や、地域包括ケアシステムにおける「まちなかの保健室」のあり方、地域リソースを活性化させるための取り組みに関する研究において研究課題や研究方法を明確にし、研究計画を立案するプロセスを修得する。</p> <p>(4 安田 美彌子) 地域メンタルヘルス看護に関する研究、アディクション看護に関する研究など。実務や経験などから疑問、興味を感じたことについて文献検討を行い研究テーマを明確にし、研究計画を立てる。</p> <p>(6 前田 隆子) 地域母子保健、家族看護に関する研究テーマについて、文献検討を行い、研究課題、研究方法を明らかにし、研究計画を立てる。</p> <p>(7 小村 三千代) 関心領域に関連のある国内外の研究および、難病の子どもや家族の看護に関する研究のクリティークを行い、研究課題および研究方法を明確にし、研究計画書を立案する。また、倫理的配慮を記述し倫理審査に申請する。</p> <p>(9 荒川 満枝) 学生の経験、興味関心、今後の活動方針より、感染症看護や感染管理看護に関する海外の現状に関する研究、日本在住の外国人に対する医療・看護の現状に関する研究、海外での医療援助活動に関する研究などをテーマとして、文献検討を行い、研究問題を明らかにし、研究計画を立てる。倫理的配慮に関して熟考・記述し、倫理審査に申請する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究科目	特別研究Ⅱ	<p>研究デザインの構築について丁寧に検討し、その後実際の修士論文作成を行うという2段階の指導を実現するために、本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。</p> <p>(1 近田 敬子) 特別研究Ⅰで立案した研究計画書に基づき、データの収集法および分析法をプレテストで確認し、実践に入る。結果および考察を吟味しながら論文化を進める。その研究過程を通して、継続看護教育の本質を探究するとともに、自らの教育観を構築する。</p> <p>(2 矢倉 紀子) 「特別研究Ⅰ」で作成した研究計画書に基づいてデータ収集、データ分析、考察を行い、修士論文を作成する。この過程を通して、看護事象を研究へと論理的に探求できる力を修得する。</p> <p>(3 田中 響) 看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、臨地実習指導方法などに関する研究や、地域包括ケアシステムにおける「まちな保健室」のあり方、地域リソースを活性化させるための取り組みに関する研究をテーマとした「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、調査・分析、論文作成、発表のプロセスを指導する。このプロセスから看護現象を研究へと論理的に探求できる力を育成する。</p> <p>(4 安田 美彌子) 地域メンタルヘルス看護、アディクション看護などについて、研究計画に沿ってデータ収集、分析、考察を行い、修士論文を製作する。</p> <p>(6 前田 隆子) 母子保健・母子看護・家族看護について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文作成する。</p> <p>(7 小村 三千代) 地域で生活している医療的ケアのある子どもと家族の看護に関する研究や、難治性疾患のある子どもと家族の看護に関する研究をテーマにした研究計画書に基づいてデータ収集およびデータ分析を行い、結果および考察を推敲し修士論文を作成する。論文の作成にあたっては、研究テーマから結論まで論旨の一貫性および論理的に探求できる能力を修得する。</p> <p>(9 荒川 満枝) 感染症看護や感染管理看護に関する海外の現状に関する研究、日本在住の外国人に対する医療・看護の現状に関する研究、海外での医療援助活動に関する研究などをテーマとする。倫理審査承認の後、計画に沿ってデータを収集・分析し、研究指導者と共に考察を十分に行う。研究計画に立ち返るとともに、論文執筆を経験し、論文作成の意義について再考する。</p>	

## 学校法人藤田学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由			
<b>鳥取看護大学</b> 看護学部 看護学科      80      —      320 <hr/> 計                              80      —      320				<b>鳥取看護大学</b> 看護学部 看護学科      80      —      320 <hr/> 計                              80      —      320							
				<b>鳥取看護大学大学院</b> <u>看護学研究科</u> <u>看護学専攻(M)</u> 5      —      10      大学院新設 <hr/> 計                              5      —      10							
<b>鳥取短期大学</b> 生活学科                      115      —      230 情報・経営専攻              35      —      70 住居・デザイン専攻        30      —      60 食物栄養専攻                50      —      100 幼児教育保育学科          145      —      290 国際文化交流学科          40      —      80 <hr/> 計                              300      —      600				<b>鳥取短期大学</b> 生活学科                      115      —      230 情報・経営専攻              35      —      70 住居・デザイン専攻        30      —      60 食物栄養専攻                50      —      100 幼児教育保育学科          145      —      290 国際文化交流学科          40      —      80 <hr/> 計                              300      —      600							